

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	伊那谷の自然と文化データベース事業	会計	一般会計	事業No.	825	施策順No.	29-013
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-11-6		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	美術博物館		
施策	29 ふるさと意識の醸成			事業期間	開始	10	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 飯田下伊那広域圏の地域住民(一般市民・教育関係者・行政担当者) 2 伊那谷の自然と文化に関する資料・情報および学術図書・雑誌						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		圏域住民数(人)		177000	177000	177000	177000	
		本館が所蔵する登録資料の総数(点)	46429	52913	58608	62237	65000	
意図	1 伊那谷の自然と文化に関する資料・情報をデータベース化する。 2 学術図書・雑誌を登録して学習室へ配架する。3 蓄積されたデータベースと図書・文献を利用者に提供する。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	ホームページで公開したデータベースの数(件)	1	1	2	4	4	6	A
	学術図書の登録数(点)	29749	30675	31479	32329	32614	33400	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		緊急雇用制度を活用して資料整理が進み、順調に達成できている。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 伊那谷の自然と文化(美術・人文・自然)に関する資料・情報をデータベース化し、市民に供するとともに、学術専門図書・雑誌の公開と、伊那谷の自然と文化に関する問い合わせ(レファレンス)への対応を行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 美博および国立科学博物館サーバに資料・情報・文献に関するデータベースを作成する。 2 一般市民・研究者に利用できるようにデータベースを整備し、公開する。 3 未登録の学術専門図書・雑誌等を図書データベースに登録する。 4 図書室を土・日・祝日に開室して、市民に公開する。	1 作成したデータベースの総数 2 公開したデータベースの総数 3 年間登録図書数 4 図書室の年間開室日数	1 7点 2 4点 3 1135点 4 101日
23年度実施計画	1 美博および国立科学博物館サーバに資料・情報・文献に関するデータベースを作成する。 2 一般市民・研究者に利用できるようにデータベースを整備し、公開する。 3 未登録の学術専門図書・雑誌等を図書データベースに登録する。 4 図書室を土・日・祝日に開室して、市民に公開する。(ただし11月中旬～2月中旬は休館) 5 民間が提供しているSaaS型収蔵品管理システムの研究を開始する。	1 作成したデータベースの総数 2 公開したデータベースの総数 3 年間登録図書数 4 図書室の年間開室日数	1 8点 2 5点 3 850点 4 85日

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		2,376	2,350	2,376		
計(A)		2,376	2,350	2,376		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			2,350			

4 事業に対する市民や議会の意見

1 市民からは、資料や図書を利用しやすくしてほしいという要望がある。
2 博物館協議会では、ホームページの内容を充実してほしいという要望がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	1 地域を知る 2 地域を誇りに思う	施策の成果指標又はムツ指標	1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数) 2 ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	図書および学術情報を提供することにより、より深く研究しようとする市民の要望に応えてきたが、まだ利用数は限られている。一方、伊那谷の自然と文化に関する問い合わせは数多くあり、地域を知るためのレファレンス機能は果たしてきた。		
	後期に向けた課題	図書室および各種データベースの広報と、図書館との連携等が課題。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	平成21年度から緊急雇用制度を利用し、資料整理およびデータベース化に取り組んできた。植物分野で始まったサイエンスミュージアムネット(S-net)や、長野県美術館ネットワークのデータベース共有化へ参加してきた。		
	後期に向けた課題	各データベースの方針を明確にし、全国的に進むデータベース共有化への検討を行う必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	不要な印刷物を減らし、データベースをWeb上で提供するシステムへと徐々に変更してきた。		
	後期に向けた課題	美博独自のデータベースサーバの維持管理が課題。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	図書の閲覧や情報へのアクセスおよびレファレンスなどの当事業については無料を原則としてきた。このようなサービスは民間では実現できず、上位施策を実現するために市独自で行うことが今後とも妥当と判断している。		
	後期に向けた課題	なし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	各種データベース構築は館独自に行ってきたが、民間の研究団体から協力支援の申し出を受けるようになった。しかし植物分野など一部のデータベースにしか反映できていない。		
	後期に向けた課題	データベースの設計から管理まで、民間の研究団体との相互協力が必要になってきている。		
全体を通じて	4年間の振り返り	データベースを通して学術情報を提供する事業は、重要度が高いにもかかわらず、学芸員と一部の研究者が利用する域をでていない。市民や外部研究者の目線でのシステム設計が必要になってきた。		
	後期に向けた課題	情報基盤整備がさらに進む中で、この事業のより効果的な事業展開が必要になってきている。とくにデータベースのシステムを再検討する必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--